



内科秘録

士

小婦
鬼人

武繪
777
12



信
9
武
12

內科秘錄卷之十二

目錄

婦人

腸覃

帶下

小兒

初生

臍風撮口

夜啼

臍中出血

內科秘錄

卷之十二

目錄

自註

滿ツルニ至ル今靈樞ニハ瘰肉ト為シ尤怡ノ醫學
 讀書記ニハ瘰瘤ノ類ト為シタリ愚按スルニ子宮
 病ニシテ瘰瘕積聚ノ類ト微シク其因ヲ異ニス曾
 テ鎖宮ニテ經閉スルモノアリ其腹候腸覃ト相似
 タリ是ハ陰門ヨリ刺シテ敗血ヲ去ルニ全治セリ
 由是攷之腸覃ハ子宮表裏ノ間ニ敗水ノ滯留シタ
 ルナルヘシ即水癩ノ類ニ屬ス試ニ合谷針ヲ以テ
 是ヲ刺スニ針鋒運轉シテ自ラ水ノ滯留スルヲ覺
 ヲ其軟ナルモノハ必ス水アリ其硬ナルモノハ水
 ナキニ似タリト雖氏蓋シ子宮ノ皮厚フシテ針鋒

ノ水ニ達セサルナルヘシ是病妊娠セサルモノニ
 在リ假令妊娠シタルモノモ產後再ヒ妊娠セサル
 一數年ノ後ニ發ス多クハ四五十歳ニ及ンテ是ヲ
 患フ又十一歳十八歳ニテ是ヲ發シタルモノアリ
 初ヨリ小腹ノ正中ニアリテ左右ニ偏セス其大サ雞
 蛋ノ如ク漸大ニナルニ及ンテハ南瓜ノ如ク若シ
 クハ西瓜ノ如クナルモアリ靈樞ニ云フ通り懐胎
 ノ日ニ大ニ月ニ長スルニ似タリ少壯ニテ發スル
 モノハ殊ニ殖テ臨月ノ腹ヨリモ大ニ見ユルモノ
 アリ多クハ正圓ニシテ區平ナラス橢圓ナラス亦

凹凸礪何ヲ成サス之ヲ按スルニ微シク運轉シテ
 左右スヘク亦浮沉スヘシ上部ヘ向テ之ヲ推シ上
 ル寸ハ陰門ノ鈞リ上ルヤウニ覺ヘ之ヲ下部ニ向
 テ推シ下ル寸ハ陰門ヘ張り出スヤウニ覺ヘ月信
 時ヲ以テ下リ寒熱疼痛等ノ症ナク唯小便ノ常ヨ
 リハ近キヲ覺ユルノミ或ハ殊ニ浮凸シテヨク運
 轉シ若シ割開スル寸ハ容易ニ抜キ取ルヘキヤウ
 ニ見ユルモアリ

治法ハ通氣利水ノ劑ニ宜シ烏苓通氣湯若クハ加味
 胃苓湯ヲ與ヘテ姑ク增長肥胖スルヲ禁スルノミ

若シ誤テ攻下ノ劑ヲ與ヘ或ハ針灸ヲ以テ攻ル寸
 ハ大害アリ一診シタル所ニテハ大病ノヤウニ見
 ユレ氏本癩疝ノ類ナレハ漫ニ手ヲ着ケス其儘ニ
 置ク寸ハ生命ヲ害セス又年老ル寸ハ漸漸ニ減少
 シテ小クナルモノナリ

婦人少腹ニ一塊或ハ二塊或ハ圓ニ或ハ長ク突兀ト
 シテ時ニ隱顯アリ之ヲ按スルニ微シク移轉スヘ
 ク經行ニナレハ腰腹急痛シ生涯妊娠セサルモノ
 アリ腸覃ニ似タリト雖氏其因自ラ異ナリ誤テ混
 スヘカラス是モ年老テ經斷スル寸ハ疼痛モ去テ

塊チヤモ小クナルモノナリ當歸芍藥散ヲ與フヘシ

腸覃應用方

加味胃苓湯類華治一切水腫脹滿。

胃苓湯中加紫蘓香附子各七分木香五分。

烏苓通氣湯

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 大、下、一、等）

婦人

帶下

帶下ノ脈證并ニ治法等已ニ瘍科秘錄ニ論スル通り
肉塊ヲ下スノ外ハ固ヨリ難治ト為ス然レ氏今又
經驗ノ古方及先師ノ家傳歷驗ノ方ヲ載セテ採用
ニ備フ亦老婆心ニ出ルノミ
陰中ヨリ稀水粘滑ニシテ鷄子白ノ如キモノ常ニ滴
瀝シ多キ寸ハ禪ヲ潤シ臭氣モナク亦疼ミモ無ク
百方スレ氏止マサル者アリ少壯ノ時ハ多ク下リ
老大ニ至レハ減少スルモノナリ又經行終レハ稀

水必ス多ク下リ七八日ニシテ止ミ又來月ノ經行
 ノ後ニ下ルヲ前月ノ如ク毎月如此シテ終身止マ
 サル者アリ此水ノ下ル者ハ皆妊娠スルヲ能ハス
 之ヲ白淫ト謂フ當歸芍藥散ニ宜シ
 腔腫流注飯富村政平妻妊娠シテ月ハ滿チタレ氏死
 胎ニナリテ産ミ難ク產婆屢探宮シ多方シテ分娩
 シタレ氏後五六日ニシテ横骨ノ上漫腫シ石硬ニ
 ナリ皮色變セス村醫更療スレ氏寸効ヲ奏セス亦
 其病因ヲ明辨セス三兒貞佐之ヲ診スルニ腫上硬
 シト雖氏測膿術ヲ以テ熟察スルニ指頭ノ大サホ

ト軟陷ノ所アリ是有膿ノ候トス又探宮スルニ腔
 内亦硬腫シテ狭窄ニナリ僅ニ指ヲ容ルヘシ按ス
 ルニ產婆屢探宮シタル故腔内焮衝シテ外部ヘ流
 注シ膿ノ既ニ成リタルヲ明白ナレハ「ラ」ンセツタ
 ヲ刺ス「一」寸餘ニシテ臭膿大ニ出テ乍チ輕快ヲ
 覺フ鍼口ヘ破敵ノ紙摺膏ヲ挿入シ托裏消毒飲ヲ
 與フルニ膿味ニ減シ不日シテ全愈ス
 子宮癰加倉井村與右衛門妻年三十九七年以前崩漏
 ヲ患ヒ後二年許ニシテ小腹ニ塊ヲ結ヒ大サ家鴨
 卵ノ如シ微シク運轉ス或ハ時ニ微痛スルヲアリ

一日宿塊卒ニ痛ミ手觸レ近ツクヘカラス村醫大
 黃劑ヲ與フルニ快利一行ニシテ病微シク退キ陰
 中ヨリ粘液或ハ稀水或凝血淋漓トシテ下リ二三
 日ニシテ腹痛再發シ切ルカ如ク刺スカ如ク小腹
 硬滿シテ敦狀ニナリ小便澁滯或ハ陰門及ヒ穀道
 へ脹リ或ハ渴シ或ハ乾嘔或ハ蛇ヲ吐シ惡寒發熱
 シテ食ヲ思ハス幾ント絶穀ニ至リ脈微數ニナリ
 日ニ疲勞シテ死地ニ墜ルニ似タリ隣里郷黨ノ醫
 皆必死ヲ告テ固辭ス三兒貞佐診シテ子宮癱ト為
 シ先ツ驅虻湯ヲ與へ續テ腸癰湯ヲ投スルニ果シ

テ膿血陰門ヨリ下ル一合許リ又蛇蟲大便ニ從
 テ下ル一三條ニシテ嘔氣斷然ト止ミ初メテ飲食
 ヲ思フ然レ氏腹滿故ノ如ク加之下利數行アリ疲
 勞日ニ加フ因テ補中益氣湯ニ轉方スルニ卒然ト
 シテ敗血大ニ下ル一升餘腹痛忽止ミテ失スル
 カ如ク腹滿モ亦從テ盡ク消シ飲食日ニ進ミ不日
 シテ全愈ス

帶下應用方

温經湯金匱治下利數十日不止暮即發熱少腹裏急腹
 滿手掌煩熱唇口乾燥此病屬帶下

吳茱萸 三兩 當歸 芍藥 芍藥 人參

桂枝 阿膠 生薑 牡丹 甘草 各二兩

半夏 半升 麥門 一升

右十二味煎服。

蒲黃散 十金 治漏下不止。

蒲黃 半升 鹿茸 當歸 各二兩

右為末酒服五分匕日三。

治婦人赤白帶下不問遠年近日皆治奇効

龍骨 半兩 船上硫黃 二錢

右為末每服半錢無灰酒調下。

阿膠散 聖惠 治婦人赤帶下腹內疴痛。

阿膠 當歸 芍藥 熟地黄 牡蠣 各等分

右為散以粥飲調下二錢。

炮乾薑湯 高階 療經病月水淋瀝不斷或時行時止或多

或少或經絕數月忽然暴下初用芍歸膠艾湯不痊腹

中時痛口中乾燥心中煩悸四肢羸瘦飲食無味漸加

乏弱或面色痿黃心忪耳鳴口淡不知味纔攀高則乍

悸築氣急此為虛極尤甚乃帶下之所致。

炮乾薑 白朮 人參 芍藥 乾地黄 芍藥

當歸 吳茱萸 木香 桂枝 艾葉 阿膠

甘草

右十三味濃煎服。

黃耆四君子湯

同

療腸風下血數十日不止或斷復續面

黃白脈虛浮唇吻刮白心中悸築不安頭重耳鳴纒攀

躋則氣急欲絕自帶下得此症亦有効。

三七

俗稱廣東人參者

白朮

茯苓

黃耆

甘草

白扁豆

吳茱萸

黃連

炮乾薑

右九味濃煎服。

增損腎着湯

同

療腎着身體重冷腰臀如坐水中或腰痛

如折起坐艱難俛仰不利轉側不能或腰間似有物重

墜起坐艱辛兼婦人腰冷雖夏月擁爐上體反熱面赤
翕然如醉是帶下所致也。

甘草

乾薑

白朮

茯苓

當歸

吳茱萸

桂枝

莎草

石八味濃煎服

增損溫經湯

同

療婦人小腹寒久不受胎至夜即發熱小

腹裡急腹滿手心煩燥唇口乾燥此為帶下或經水來

過多及至期不來或經水不利小腹膨滿而痛一月再

三見者或小腹滿如軟狀小便微難頗似淋狀此皆屬

帶下。

吳茱萸 當歸 川芎 芍藥 人參 桂枝

阿膠 牡丹 甘草 半夏 麥門冬 生薑

附子 炮薑

右十三味濃煎服若白沃不止或漏下不止者加牡蠣艾葉

腎着飲同療婦人腰間如有物重墜起坐艱辛俛仰不便轉側不能連于腿脛寧蹇沈痛從腰以上酷冷非倚爐敷裯則不能温暖此病屬帶下也男子腎冷腰痛証候與上條同者尤宜

杜仲 牛膝 蒼朮 茯苓 乾薑 桂枝

當歸 澤瀉 莎草 甘草

右十味濃煎服

帶下乳巖ノ二病ハ本是同病ナルヲ既ニ瘍科秘録中ニ論ス近頃治驗ニヲ得タリ一孀婦年五十赤白帶下ヲ患フルヲ日已ニ久クシテ後永ク廁ニ上リ或ハ浣衣等ニテ長ク蹲踞スルニ一肉塊ヲ挺出ス大サ木通子ノ如ク色紫黒ニシテ斑斑ト腐爛シタル所モアリ穢氣薰蒸ス自分ニテ押シ込ムニ容易ニ入り故ノ如クニナリテ赤白ノ穢物ヲ下スノミ後ニハ癖ニナリテ數出ルニ塊モ漸大ニナリ扁平ニ

シテ胞衣ノ如ク脈絡縈結シ深ク腐リタル處モアリ又翻花シタル所モアリ根蒂ハ細クシテ母指程モアリ藥線ニテ根蒂ヲ緊緊シ數日ニシテ切レ落タリ其時ハ下血モ多クアリタレ氏格別ノ險証モ起ラスシテ本病ノ帶下モ治シタリ又一婦人年四十餘帶下ヲ患フルヲ一年許是モ亦一肉塊陰中ヨリ下垂ス色白フシテ宛モ脱宮ニ似タリ瓜ニテ搯スルニ微モ知覺ナシ根蒂ノ細キ處ヲ撮ミ切りテ後帶下ハ廓然トシテ愈ユ塊物ヲ半截シテ視ルニ交理錯綜シテ紫血ヲ含蓄ス強ク壓スレハ敗血滴

瀝トシテ出ツ又一老尼年四十餘月信或ハ斷へ或ハ來リ兎角不調ニナリ遂ニ赤白帶下ニ變シ荏苒ト日ヲ經ルニ一日陰中頻ニ張テ何カ物ニテモ一杯ニ挾タルヤウニ覺ユト云フ探宮スルニ一肉塊下垂セリ試ニ爪ニテ搯スルニ絶テ痛痒ナシ指ニ從テ上下セリ因テ緊シク撮ミ引クニ塊物餘程出タル頃根蒂ヲ摸索シ麻絲ヲ貫キ又鈎ヲ掛ケ緩急消息シテ引出シ根蒂ノ近クナリタル頃得ト摸索スルニ子宮ノ口ニ連着セリ「ゴロン」メスヲ紙ニテ卷キ刀尖ヲ少シ許露シ拇指ト中指無名指小指ニ

外科秘鑑

卷十一

雜考

テ刃柄ヲ握リ食指ヲ刀背ニ當テ陰中へ挿シ込ミ
 又左ノ食指ヲ容テ内應シ左右ヨリ消息シテ輕輕
 ト截リトルニ大サ茄子ノ如ク膜ニテ包ミ微細ナ
 ル筋絡ヲ纏フテ色赤シ一端ハ紫黑色ニナリテ微
 シク糜爛セリ塊ノ出テ後ハ帶下斷然トシテ愈ユ
 其塊ヲ硝子鑊ニ入レ浸スニ火酒ヲ以シ寒熱ニ貯
 へテ同志ニ示セリ

小兒

初生

臍風撮口

夜啼

臍中出血

吐乳

初生ハ第一ニ身體不具及ヒ附贅ヲ熟視スヘシ缺唇
 蹠戾鎖肛鎖目枝指胎瘤痣靨ノ類早ク知ツテ療治
 セサレハ不治ニ至ルモノアリ假令治スルモ重舉
 ニナルモノナリ大便ノ黒ク通スルヲ臍糞ト云ヒ

又胎屎ト謂ク本邦ニテハ「カニハ」ト呼フ古ヨリ
之ヲ胎毒トナシテ下毒ノ劑ヲ用ヒ名ツケテマク
リト謂フ吾門ニテハ甘連大黃湯加鷓鴣菜ヲ與ヘ
草兵丸若クハ紫圓ヲ兼用トス胎屎ヲ熟視スルニ
黃疸或ハ肝臟硬腫ニテ下ル所ノ大便ニ同シ又嘔
家黃水ヲ吐キ盡シテ後ニ吐ク所ノ黒液ニ異ナラ
ス然レハ胎屎ハ膽汁ノ腸中へ瘀滯シタルモノナ
ルヘシ假令下劑ヲ用ヒサルモ良能ニテ自ラ下リ
又乳汁ニ瀉下ノ能アリテ乳ヲ吮フ寸ハ亦自ラ下
リ盡キルモノナリ固ヨリ穢物ナレ氏必スシモ頭

瘡等ヲ發スルノ因トナルモノニ非ス瘦テ啼聲低
ク手ヲ握ラス髮ノ疎ナル者ハ弱クシテ育シ難シ
肥テ啼聲高ク手ヲ握リ髮ノ濃キ者ハ強クシテ能
ク成長スル者ナリ若シ保護ヲ失シ風ヲ引シムル
寸ハ鼻塞リテ乳ヲ吮ヒカ子何逆モ愈スシテ難儀
スルモノナレハ預メ用心シテ胃寒ヲ防クヘシ臍
帶ノ落タル跡ハ乳香若クハ五倍子ノ末ヲ糝シ綿
布ヲ以テ繃縛スヘシ収斂シテモ浴スル寸ハ遊奕
ニテ蓋フヘシ若シ保護ヲ失シ或ハ早ク浴セシム
ル寸ハ風寒若クハ濕氣臍中ニ入ツテ臍風撮口ノ

症ト成ルナリ臍帶ノ跡能ク斂縮スル寸ハ四ニナ
リ能ク斂縮セサル者ハ突起ス啼毎ニ努出シ漸漸
ニ膨脹シテ瘤ノ如クニ成ル者ナリ之ヲ臍突ト云
フ是ハ腸癰ト同シニテ即チ臍ノ腸癰ナリ指ニテ
強ク按スレハグツト聲ヲナシテ沈伏シ手ヲ放テ
ハ復タ突起スルヲ故ノ如シ綿布ヲ幅一寸長廿五
尺ニ截リ正中へ遊奕ヲ攤ヘ臍上へ貼シ兩端ヲ以
テ腹ヲ卷ク一兩三匝ニシテ結束スヘシ矢張腸癰
へ鈎鍵帶ヲ用フルト同ラシテ臍口自ラ斂縮シ出
ヌヤウニ成ル者ナリ母若シ乳少フシテ乳母ヲ雇

フ寸ハ第一ニ癰毒ノ有無ヲ明辨スヘシ假令癰瘡
一旦瘳ヘテモ餘毒内ニ伏スル寸ハ必ス乳脈ヨリ
小兒へ傳フル者ナリ乳頭ノ凸起セサル者ハ乳ヲ
吮フニ便ナラスシテ小兒啼泣スルヲアレ氏屢吮
フ寸ハ自ラ延長スル者ナリ或ハ乳頭塌陷シテ凹
ニ成リ微シモ乳ヲ吮フノナラス者アリ乳母ヲ
雇ント欲スレ氏速ニ得ルヲ能ハス近隣ニモ乞フ
ヘキノ乳ナクシテ遂ニ小兒ノ死スルヲアリ
病人ヲ診スルニハ望聞問切ノ四法アリ就中間法ヲ
緊要ト為ス疾病ハ大抵問法ノ一ツニテ知レルモ

ノナリ小兒ハ言ハヌ者ユエ小兒醫ヲ啞科ト稱シ
 テ問法ヲ闕クモノナレハ療治ノ六箇敷モノナリ
 故ニ古語ニ寧醫二十丈夫莫醫一婦人寧醫十婦人
 莫醫一小兒ト云ヘリ本邦ニテモ古ヨリ小兒ノ病
 ハ分ラヌト見ヘテ萬病唯蟲ト爲シテ療治セリ
 然レ氏心誠求之雖不中不遠ト謂フ聖人ノ教モア
 レハ專ニ注意シテ病證ヲ察シ療スル寸ハ大過ナ
 カルヘシ小兒ノ脈ハ微細ニシテ持リニクキモノ
 ナリ入門ニ十歳曰韶始可以一指按三部脈トアリ
 予ハ拇ノ一指ヲ以テ三部ヲ診スルニ初生ト雖氏

六脈ヲ知ルニ足レリ

臍糞ノ出テ盡キタル後ニ大便黄色ナルハ膽汁ニテ
 染リタルナリ緑色ニシテ艾葉ヲ搗キタル如ク或
 ハ青菜ノ絞リ汁ニ似タルヲ青便ト名ツケ虚候ニ
 シテ惡症トス是ハ膽汁ノ凝滯シタルナリ膽汁稀
 薄ナレハ黄色ニナリ稠厚ナレハ青色ニ變ス微シ
 モ怪シムニ足ラス初生ハ大便屢通スルヲ善トス
 便秘スル者ハ吐乳ヲ患フルヲ多シ若シ秘結スル
 者ノハ草兵丸ヲ一二粒ツ、與ヘテ通利ヲ取ル
 へシ

内科秘鑑 卷地

薛平齋

臍風撮口ハ一病ナリ分テ二病トスルハ非ナリ方言
 ニ「ホウツキムシ」ト云フ臍帶落テ後一二日ノ間ニ
 發ス帶落ノ前日ニモ無ク亦帶落ノ後日數ヲ經ル
 モノニモ無シ臍風ハ病因ニシテ撮口ハ病症ナリ
 臍口ノ未タ收マラヌニ寒ヲ冒シ或ハ浴シ濕氣ヲ
 受ケテ發スルナリ此病試ニ乳頭ヲ口ヘ當ツルニ
 必ス口ヲ撮テ之ヲ拒ミ決シテ口ヲ開カス他病ハ
 吮又迫モ口ヘ容ル、モノナリ此病ニ限リテ微モ
 乳頭ヲ含マス病ノ發作スル毎ニ口ヲ撮テ尖ラカ
 シ白沫ヲ吐キ面ヲ蹙ノ須臾ノ間ニ四肢羸瘦顔色

慘悴シ日夜啼テ止マヌ後ニハ聲モ低小ニナリ喘
 急腹滿或ハ微ニ搐搦シ遂ニ衝心シテ死スルモノ
 ナリ初生ノ「ナレハ別ニ手段ノナキモノナレハ
 先ツ神闕ニ灸シ參連湯加熊膽及「草兵丸若クハ
 紫圓ヲ與フ可シ或ハ灌腸スルモ亦可ナリ
 夜啼ハ初生四五十日ノ間ニ在リ毎夜時ヲ期シテ啼
 泣シ悶絶セントスル程ニ至リ或ハ一時或ハ二時
 或ハ長ク啼テ明旦ニ達スル「モアリ萬方スレハ
 急ニハ止マス三四十日モ過クレハ自ラ止ムモノ
 ナリ「透ニ視ル寸ハ腹痛ニテモスルヤウニ見ユル

モノユエ古人モ多クハ腹痛ト為シテ論セリ是モ
 臆度ニテ必然トモ思ハレス又夜ニ限ラス白晝或
 ハ日晡卒然トシテ啼キ出シ長ク止マヌトアリ是
 ハ小兒初生ノ常態ニシテ病ニ非ス天樞へ灸ヲス
 ユル寸ハ早ク止ムナリ又外臺ニ芎藭防己白朮各
 等分ヲ細末ト為シ兒ニ飲マシメ又之ヲ臍中及頭
 脊ニ塗ルノ方アリ又猬皮三寸四方ヲ焼灰ニシ乳
 頭ニ著テ兒ニ飲シムルノ方アリ此ニ方ニテ効ヲ
 取りタルコトアレハ宜シク試用スヘシ夜啼久シク
 止マサル寸ハ臍凸ハ勿論ノコト腸癰ヲ發スルコトア

レハ預ノ顧慮スヘシ
 臍中出血ヲ先師南陽ハ多クハ即死スルモノナリト
 言ヒ置レタレ氏予ハ未タ即死スル者ヲ見ス臍帶
 ノ落チタル痕ハ三孔アリ其一ツハ静脈ノ孔其二
 ツハ動脈ノ孔ナリ静脈ノ孔ハ出血セス出血スル
 ハ即動脈ノ孔ナリ先ツ臍ヲ撮ミ舉ゲ血ノ出ル處
 へ艾葉ヲ敷キ其上へ烙鉄ヲ當ツヘシ血止ミタラ
 ハ遊奕ニテ蓋ヒ其上へ繃帶ヲ施スヘシ少シ許リ
 出ルハ決勝若クハ乳香散ヲ敷キ遊奕ニテ蓋フヘ
 シ

吐乳ハ又吐乳氏謂フ多クハ初生七八十日ノ後ニ發
ス初ハ輕ク見ユレ氏後ハ必ス慢驚風ニ變シテ死
ス至極ノ大病ナレハ最初輕證ノ時ニ慢視スヘカ
ラス病家ヘモ大病ナルヲ告テ療治スヘシ是ハ
父母ノ遺毒ニテ血脈ヲ引クモノナリ一兒吐乳ヲ
患ヒテ死スレハ其次ノ兒モ又其次ノ兒モ同病ヲ
患フルモノアリ兄弟四五人吐乳ニテ死セシ家
アリ或ハ吐乳ニテ兒二人死シタルニ恐レ其次ノ兒
ニハ母ノ乳ヲ與ヘス乳母ヲ倩フテ吐乳ヲ免レシ
モノアリ此病因ヲ考フルニ大人ノ脾疼及胃等ト

同フシテ脾胃ノ虛冷ヨリ起ルヤウニ思ハル
リ小兒ノ脾胃ハ殊ニ薄弱ユエ虚スル寸ハ乳汁ヲ
モ消化スルヲ能ハス腸モ從テ輸送ノ職ヲ怠リ大
便ハ秘シテ通セス乳汁ハ心下ニ停滯スルユエ吐
乳ヲ發スルナリ初生ハ乳汁ノミニテ膏粱ノモノ
ヲ食スルヲモナケレハ脾胃ヲ傷ルヲモアルマシ
キナレ氏其母及ヒ乳母常ニ膏粱ノ物ヲ放ニ食ス
ル寸ハ乳汁自然ト濃ナリテ脾胃ヲ傷ルナルヘシ
故ニ吐乳ハ王公大人及ヒ市井ニテモ富豪ノ家ノ
小兒ニ多シ田野貧窶ノ小兒ニハ至テ少キモノナ

リ初生ノ小兒ハ大便ノ三四行ツ、モ快利スルヲ
 宜シトス若シ大便秘結スル寸ハ等間ニスヘカラ
 ス多クハ吐乳ノ催シナリ早ク心附テ草兵丸ヲ日
 ニ二三粒ツ、用ヒ快利ヲ得レハ吐乳ヲ免カル、
 モノアリ初發ハ大便秘シテ通セス乳ヲ貪リテ飲
 ミ過ルユエ乳汁心下ニ停滯シ黙黙トシテ氣ヲ塞
 キ遂ニ乳ヲ吐クナリ吐テ後ハ元氣乍チ開キ^{玩物}
 ヲモ持テ笑語常ノ如クニ復スルナリ須臾ニシテ
 又腹ヲ饑シ乳ヲ貪リ飽悶シテ又乳ヲ吐スルナリ
 吐クニ後テ飲ミ飲ムニ後テ吐ク^日ニ五六回ニ

至リ或ハ黄水ヲ吐クモアリ快利ノ丸藥ヲ與ヘ大
 便通ル寸ハ一旦快クナリテ吐乳ノ止ムモノモア
 レ^氏又二三日ヲ經レハ再發スルモノナリ吐乳久
 シキ寸ハ青便ヲ自利シ或ハ暗綠色ニナルモアリ
 身體黄瘦シテ愈乳ヲ貪リ少間モ乳房ヲ放サス其
 間ニ飲食寒具ヲモ貪リ常ニ念恚啼泣シテ止マヌ
 遂ニ驚搐ヲ發シ高聲ハ勿論^七聲咳等ニモ驚キ直視
 上竄シテ搐搦スル^日ニ三四發ニ至ル即チ慢驚
 風ナリ必死ト為ス黄瘦甚シキ寸ハ印堂及ヒ左右
 大陽ノ邊ニ青浮絡ノ多ク見ル、ナリ慢驚風ニ變

シテ後ハ青菜ノ絞汁ノ如キ大便ヲ下スヲ愈多シ
尤モ惡候トス大人小兒ヲ論セス大便ノ黄色ナル
ハ膽汁ノ溶化シタルナリ青緑ニ下ルハ膽汁ノ凝
滯シタルナリ

治法ハ最初便秘スルモノハ草兵丸若クハ紫圓ヲ
一日ニ二三粒或ハ五六粒ツ、與ヘテ適宜ニ下利
ヲ取ルヘシ主劑ハ錢氏白朮散ノ藥品ヲ吟味シ韓
參漢朮ニシテ用フヘシ連服シテ効ナキ寸ハ錢氏
異功散ヲ用フヘシ吐乳頻數ニシテ藥汁ノ一切納
マラサルモノハ小半夏加茯苓湯若クハ五苓散等

ヲ撰用スヘシ疲勞甚ニク脈蜘蛛絲ノ如キハ理中
湯ニ宜シ驚搐ヲ發スルニ及テハ驚風ノ治法ヲ用
フヘシ發驚ンテ人事不省ニ至ラハ人參湯加熊膽
回生散ヲ與ヘ天樞神闕等ニ灸シ或ハ合谷ヲ刺シ
又活術ヲ入レ是ニテ一旦ハ回生スレ氏必ス再發
シテ慢驚風ニナルモノナリ慢驚風ハ淨府湯羚羊
飲ヲ撰用シテ奇應丸ヲ兼用トス慢驚ニナリタル
ハ百死ニシテ一生ナシ持藩士ノ兒吐乳ノ後慢驚
ニ變シ一日ニ再發シ或ハ三四發シテ至極危篤ニ
至リ百方スレ氏寸効ヲク衆醫手ヲ束手タリ予乃

千家嚴ノ膝下ニ就キ管見ヲ陳シテ其許可ヲ承ケ
人參湯ノ參ヲ韓參ニシテ用ル_ル數日人參秤量一
兩半ヲ盡シ價金二十圓ヲ費スニ至テ病全愈セリ

小兒初生臍風撮口夜啼臍中出血吐乳應用方
錢氏異功散 直訣 治小兒虛冷

四君子湯加橘皮
羚羊飲 高階 治陰陽痲症

抑肝散加羚羊角
紫圓 千金 治小兒腹中有痰癖哺乳不進乳則吐乳

代赭石 赤石脂 巴豆 去殼各 杏仁 二兩

石四味研末糊丸

小半夏加茯苓湯 五苓散 理中湯 人參湯

參連湯加熊膽 錢氏白朮散 淨府湯 回生散

草兵丸 決勝 五倍子 乳香 遊奕

ルニ驚癇ハ固ヨリ同病ニシテ中風モ亦同病ナル
 ヘシ小兒ハ身體脆軟ニシテ精神未タ充タサレハ
 癇ヲ發スルヲ微シク大人ノ癇ニ異ナルナリ大人
 ハ身體強壯ニシテ精神充足スレハ其癇ヲ發スル
 一微シク小兒ノ驚ト同シカラス因テ一病ナレト
 名ヲ二ツニ立タルノミ老人ハ身體衰殘シテ精神
 虚耗スレハ其癇ヲ發スルモ小兒ノ驚少壯ノ癇ト
 大ニ異ナルユエ名ツケテ中風ト云フノミ實ハ驚
 風癲癇中風ノ三症ハ同病ナルヘシ驚風モ血統ヲ
 引ク者ニテ父母癇ヲ患フル寸ハ其兒多クハ驚風

ヲ發スルモノナリ

其候卒然トシテ驚悸シ惕惕トシテ安ンセス直視上
 竄シテ或ハ左顧右眄或ハ口眼喎斜或ハ咬牙噤口
 シ或ハ喜欠一身顛動シ手足搖擗シテ急ニ手ヲ伸
 ヘ堅ク拳ヲ握リ心下急滿精神昏迷シテ人事ヲ省
 セス或ハ嘔吐或ハ涎沫ヲ嘔キ脈沈伏シテ悶絶ス
 藥汁咽ヲ下リ灼艾膚ヘ透ル寸ハ啼聲ヲ發シ翕翕
 トシテ發熱シ自汗流ルカ如クニ出テ煩渴引飲
 シテ藥水ヲ辨セス急ニ飲テ茶碗ヲ嚙ント欲シ醒
 ルカ如ク睡ルカ如ク氣怯神散シテ明了ナラス須

更ニシテ再發シ或ハ三四發或ハ五六發ニ至ルモ
アリ劇キ者ハ一發ニシテ死ス即チ卒中風ニ同シ
一旦瘉テ癖ニ成リタルハ幾度發シテモ死スル
ナシ病瘉ヘテ後半身不遂ニ成リ或ハ隻脚拘急シ
テ步履ヲ妨ケ或ハ眼斜視ニナリ或ハ偏眼黑障ニ
ナルモアリ

驚風ノ緩急ヲ分ケ急ナルモノヲ急驚風ト名ケ緩ナ
ルモノヲ慢驚風ト曰フ急驚風ハ前項ニ述ル所是
ナリ慢驚風ハ急驚風ヨリ漸漸ニ變スル者モアレ
氏吐乳解顛ヨリ發スル者多シ其候急驚風ニ異ナ

ラサレ氏唯諸症緩慢ニシテ屢發シ四五日ニシテ
死スルモアリ或ハ十餘日ニシテ死スルモノニテ
必死ト為スヘシ同藩大夫某氏ノ兒初生ニシテ風
邪ニ感シ頓嗽ニ變シ屢乳ヲ吐キ二十餘日ノ後慢
驚風ヲ發シ天吊搐搦シテ悶絶スルヲ一日一發或
ハ二三發ニ及ヒ發スル寸ハ熊參湯ヲ與ヘ天樞神
闕ヘ灼艾シ發作ノ間ハ羚羊飲ヲ與フルニ七八日
ニシテ驚止ミ咳嗽吐乳モ亦減少シ二十餘日ニシ
テ全治セリ

治法急驚風ハ先ツ三黃湯ヲ與フヘシ或ハ辰砂ヲ加

フ大便屢下ル寸ハ參連湯ニ轉方スヘシ便秘スル者ハ紫圓若クハ草兵丸ヲ兼用トス又熊膽ヲ間服セシメ天樞へ灸ス若シ此手段ニテ蕪セサル寸ハ神闕湧泉ヲモ灸シ又活法ヲ行フヘシ是ニテ精神開達セス稍口ヲ開ク者ハ既ニ死地ニ墜タルナリ前法ニテ啼キ出シ發熱スル者ハ羚羊飲加黃連ニ宜シ心下急滿スルモノハ大柴胡湯加羚羊若クハ小柴胡湯加羚羊若クハ柴胡加龍骨牡蠣湯ヲ與フ痘瘡ヨリ來ルハ葛根湯若クハ大青龍湯ヲ撰用ス中暑ヨリ來ルハ辰砂五苓散ニ宜シ驚湯久シク瘳

ハ心失靈肝神昏亂スル者ハ沈香天麻湯若クハ本草彙言ノ治肝虛方ニ宜シ胡黃連散奇應丸ハ緩急ヲ論セス兼用スヘシ慢驚風ノ治法ハ吐乳門ニ載セタルユエ此ニ贅セス

驚風應用方

治肝虛內熱時驚惕時夢魘時狂怒時搐搦或大人中風小兒驚風及五癩癲癡人事狐惑一切心神失靈肝神昏亂諸症本草彙言

- 羚羊角 半夏 當歸 防風 天麻 茯苓
- 棗仁 人參 白朮 釣藤各三錢

右十味煎服。

胡黃連散 聖惠 治小兒驚風熱不退。

胡黃連 一分 朱砂 半兩 牛黃 一分

麝香 半分 犀角 一分

右五味為散用乳汁調下或為丸亦可。

奇應丸 本朝經驗 治急慢驚風小兒一切諸病。

熊膽 三錢 人參 五錢 麝香 一錢 沉香 五錢

右四味研末糊丸金箔十五張為衣。

三黃湯 大紫胡湯加羚羊 小紫胡湯加羚羊

紫胡加龍骨牡蠣湯 葛根湯 大青龍湯

辰砂五苓散 參連湯 羚羊飲加黃連 紫圓
草兵丸

ノ五疳ヲ論スルニ似タリ其論曰小兒丁奚病者由
 哺食過度而脾胃尚弱不能磨消故也哺食不消則水
 谷之精減損無以榮其氣血致肌肉消瘠其病腹大頸
 小黃瘦是也疳ノ字義ヲ危亦林ハ疳者乾也瘦瘁少
 血也ト説キ虞天民ハ因多食肥甘所致故命名曰疳
 ト云ヘリ後漢ノ王符カ潛夫論ニ哺乳多則生癩病
 ト出ツ正字通字彙等ニ小兒食甘物多生疳病ト見
 ユ今實驗スルニ小兒多ク甘物ヲ食スル寸ハ必ス
 五疳ヲ生スルモノナリ然レハ潛夫論ニ載セタル
 癩病ハ即疳病ノ誤ナルヘシ五疳ノ目ハ肝疳心疳

脾疳肺疳腎疳ナリ此外ニモ別名多シト雖モ繁冗
 ニシテ無用ニ屬ス愚按スルニ五疳ノ症ニ鼻下赤
 爛スルトアレハ矢張疳蠶ノ見込ニテ疳ト名付タ
 ルモノナルヘシ其病因輕キモノハ脾胃ノ不和重
 キモノハ脾胃ノ衰弱ナリ飲食ハ勿論乳モ過哺ス
 ル寸ハ皆疳ヲ發ス其症第一ニ氣六箇數ナリテ遊
 戯セス母ノ手ヲ離レス常ニ嗔恚啼哭シ數目ヲ磨
 擦シ鼻孔ヲ穿リテ眼目及ヒ鼻下常ニ赤爛シ爪甲
 ヲ咬ミ血ノ出ルヲ覺ヘス又衣ヲ咬ミ紺ニ染タル
 片布及ヒ絲席上ニ在レハ必ス拾テ之ヲ喫ミ烟管

ノ脂及ヒ烟灰ヲ嘗ノ泥土爐灰木炭生米ノ類ヲ嗜
 ミ飲食大ニ進ミ寒具糕飴菓瓜ノ類見ルモノヲ貪
 リ腹常ニ飽滿シテ皮色晃晃ト光リ青浮絡幾條モ
 アラハレ或ハ嘔吐或ハ泄瀉或ハ完穀下利或ハ小
 便ノ色白シテ米泔ノ如ク色萎黄ニシテ印堂へ青
 浮絡ヲ露シ或ハ虛里煽動シ脈微數四肢紫瘦シ腹
 ノミ大ニナリテ蜘蛛ニ似タルユエ蜘蛛病ノ名アリ
 リ此病十二七八ハ治スルモノナレ氏泄瀉ノ永ク
 止マサル者或ハ水氣ニ變スル者或ハ蜘蛛病ニナ
 ル者ハ皆死ヲ免レ難シ

疳腫ハ疳ノ輕症ヨリ漸漸ニ浮腫ヲ催シ小便滴瀝ト
 シテ快利セス遂ニ總身洪腫心腹脹滿シテ鼓脹ノ
 如ク陰囊玲瓏ト透明ニナリ陰莖ハ曲リテ小便ヲ
 妨ケ至極危篤ニ見ユレ氏思ノ外衝心モセス淨府
 湯若クハ冷消湯ノ類ヲ投スルニ効ヲ奏シ不日シ
 テ愈ヘ二三月ヲ歷テ再發シ故ノ如クニナリ又前
 方ヲ與ヘテ愈レ氏數再發シテ半年或ハ一年ニ至
 ル者アリ永ク愈サル者ハ多ハ死ヲ免レス
 疳眼ハ白膜へ小瘡ヲ生シ血ヲ注キタルヤウニ赤ク
 ナリ或ハ角膜曇暗ニナリ或ハ白翳出テ、烏睛ヲ

遮^サリ常ニ暗室ヲ好シ明窓へ對スルヲ得ス頭ヲ
低レテ仰キ視ルヲ能ハス之ヲ羞明ト謂フ遂ニ盲
スル者多シ又雀目ヲ患フルモアリ常ノ雀目ハ夏
月暑時ニ逢ヒ脾胃虚弱ニナリテ發シ或ハ産後血
虚シテ患フル者ナリ疳ニテ雀目ニナルモ胃虚血
虚シテ起ルト同因ナリ

疳勞ハ疳ノ勞瘵ヲ併病シタルニテ潮熱盜汗咳嗽氣
急胸痛腹滿脈細數等ノ諸症ヲ備ヘテ大人ノ勞ニ
異ナラス得効方ニ兒童二十歳以下曰疳二十歳以
上曰勞ノ説アレ氏疳ト勞トハ自ラ別病ノヤウニ

思ハル、ナリ疳勞ノ治スルハ癩癩中風ノ治シ難
キ病モ小兒時ノ驚風ノ治スルト同シナリ是迄
疳勞ヲ療治シタルニ半ハ救ヒ得タリ

治法疳ハ大人ノ黄胖ト略同フシテ平胃健胃ノ劑ニ
宜シ乃チ消疳飲若クハ弄玉湯ヲ與ヘ蝦蟇丸ヲ兼
用トス若シ闕ク寸ハ鎮悸丸ヲ代用シテ可ナリ綠
礬ノ疳ヲ治スルニテ疳ト黄胖ト同因ナルヲ知
ルヘシ腹中癖塊アリテ發熱スルモノニハ淨府湯
若クハ抑肝扶脾散ヲ撰用スヘシ肥兒丸、鷄肝丸ハ
諸疳へ兼用シテ可ナリ疳腫ハ弄玉湯若クハ理苓

湯若クハ淨府湯分消湯ヲ撰用スヘシ疳眼ハ煖衝
 シテ痛ノアルニハ涼膈散加通車數ホ小瘡ノ出ルニ
 ハ防風通聖散白翳或ハ曇暗ニナリタルニハ消疳
 飲ニ鷄肝丸ヲ兼用トス雀目ニハ蝦蟇丸鎮悸丸速
 効アリ疳勞ハ治法大人ト同シナレ氏消癖湯奇
 驗アリ又麝青丸ヲ兼用トシ鰻鱺蝦蟇ヲ日ニ食用
 ト為スヘシ蝦蟇ハ諸疳共ニ用テ鴻効アリ
 初生ノ時左ノ脇肋下ニ塊癖ヲ生スルアリ初ハ酒盃
 ノ如クニシテ堅硬ナリ漸大ニシテ覆盆ノ如ク臍
 ヲ越ルニ至ル潮熱アリテ削瘦スル者ハ多クハ治

シ難ニ即肝ノ硬腫ニシテ名テ癖疾ト云フ淨府湯
 ノ症ナリ一體小兒ノ肝ハ大人ヨリモ一倍大ナル
 モノナリ瘦タル小兒ヲ仰卧セシメ徐徐ニ按腹ス
 レハ左右ノ脇下ニ癥癖ノ如ク手ニ碍ルモノナリ
 右ハ小ニシテ左ハ較大ナリ誤テ病トナスヘカラ
 ス肝ハ大ナレ氏脆軟ナリ癖疾ハ稍小ナレ氏堅硬
 ナリ是ニテ病否ヲ辨知スヘシ淨府湯消癖湯ニテ
 消散セサル者ハ千金消癖丸ヲ與ヘ外ハ紅花膏ヲ
 貼スヘシ

疳應用方

抑肝扶脾散 醫鑑 補元氣 健脾胃 退熱消癖

黃連 一錢 白朮 茯苓 龍膽 白芥

山查 錢各八 陳皮 青皮 神麴 各六分 胡連

紫胡 甘草 各三分 人參 五分

右十三味 薑棗煎服。

消疳飲 濟生 治疳疾身熱面黃肚大青筋瘦弱者。

人參 白朮 茯苓 黃連 胡連 神麴

青皮 砂仁 甘草

右九味煎服。

消癖湯 高階 治疳勞。

淨府湯加鼈甲檳榔。

黃芪湯 指要 治小兒疳勞喘嗽虛汗骨蒸渴而腹瀉少食者。

者。

人參 一錢 黃芪 當歸 川芎 芍藥 生朮

蝦蟆 鼈甲 錢各三 茯苓 陳皮 半夏 柴胡

使君 錢各三

右十三味 薑棗煎服。

麝青丸 聖惠 治小兒氣疳壯熱增寒腹脹下利皮膚乾燥

眼澁揉鼻乳食難化日漸羸瘦

麝香 細研 熊膽 研入各半錢 茯苓 一錢 胡黃連

蘆薈 細研

三稜

桂心

大黃 炒各一分

檳榔 一枚

當歸

木香 各半分

右十一味為末煉和蜜丸如菜豆大

蝦蟇丸 幼幼

治五疳羸瘦毛髮稀疏揉鼻咬甲吃土腹大

頸細痢如泔淀乳不消小便濁

綠礬 斤各半

醋五升煮礬棗熟入黃連 四兩 訶子 去核 使君 夜

明砂 兩各二 蝦蟆 燒四

右搗棗肉丸黍大三四歲乳前米飲下三十九

肥兒丸 回春 消疳化積磨癖清熱伐肝補脾進食殺蟲潤

肌膚養元氣

黃連 薑汁炒

神麩 炒

麥芽 炒

山查肉

人參 各三錢半

胡黃連 五錢

白朮 去蘆

茯苓 去皮

甘草 各三錢

使君子 去殼四錢

蘆薈 二錢半

右十一味糊丸

千金消癖丸 醫宗金鑑

蘆薈

阿魏

青黛

木香

厚朴

檳榔

陳皮

甘草 各一錢生

使君子

胡黃連

山查肉

香附

三稜

莪朮

水紅花子

神麩

麥芽錢各四炒 人參 白朮 茯苓錢各三

右二十味為細末糊丸

鷄肝丸叢桂 治小兒疳癖虛羸疳眼生翳一切眼目或痘毒入眼者

鷄肝一具 胡黃連 肉豆蔻各三分

芙蓉花二分

右四味以水一合無灰酒半合煮肝及心至殆盡而出肝心切片片餌之日三四次以藥渣及煮汁和寒製米粉至可丸為度丸梧子大每服二三十丸非特小兒用之大人眼目暗黑不明或醫矇者并老少雀目用

而有異驗

紅花膏醫宗金鑑 治癖疾

沒藥五錢 血竭 麝香 阿魏各三錢 當歸

赤芍錢各一 水紅花料一捆煎汁去渣 嫩膏一碗

右為細末入膏內攪勻以青布攤貼患處

淨府湯 分消湯 涼膈散加通車 防風通聖散

理苓湯 弄玉湯

